



## できごと

12月8日(月)、グランシップを会場に「静岡県図書館大会」が開催されました。

午後はテーマ別に分かれて分科会が行われました。子どもの本に関しては、第2分科会で「小学生への読み聞かせ〜がんばれ！児童図書館員&ボランティア」をテーマに開かれました。

講師は、元都立多摩図書館職員で児童図書館研究会運営委員長の杉山さく子氏。講演では、読み聞かせや子どもの読書の実態について、子どもの読書とは何か、小学生の子どもたちに読み聞かせを通してできることはどのようなことかについてお話しくださいました。講演の中で、読み聞かせに向く具体的な絵本の紹介もあり、とても参考になる講演会でした。

2ページ目にて、概要を紹介します。(青木)

## 子どもの本に関する賞

今号では、この1年間に発表された子どもの本に関する各賞をご紹介します。

受賞作の顔触れを見ていくと、既に読んだ本や、前から気になっていた本などもあるのではないのでしょうか。受賞にうなずいたり、首を傾げたりというのも、賞の楽しみ方の一つだと思います。賞の中には受賞理由などを書いたウェブページが設けられているものもありますので、受賞理由を読んでみるのもまた一興です。ますます読みたくなったり、もう一度読み返したくなったりすることもあるでしょう。

いずれにしても、賞をきっかけに、子どもの本が話題になり、子どもの本の世界が広がっていくことを期待しています。

3ページ目にて、概要を紹介します。(鈴木由)

### ◇子ども図書研究室のテーマ展示 たいま展示中です！

- ◆入園・入学の本
- ◆「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と子どもの本に関する賞
- ◆新着図書も展示中です。

### ◇イベント情報 その1◇

#### ◆静岡県立中央図書館 企画展 「静岡発！昭和の幼児指導絵本『あそび』展」

会場では、絵雑誌「あそび」がつくられた時代背景や「あそび」の実物、原画の他、同時代の子どもの向けの雑誌を紹介します。今回新たに発見された「あそび」創刊号は必見です。

- 会期 2月18日(水)～3月29日(日)  
午前9時～午後5時
- ※3月10日(火)、21日(土)は休館
- 入場 無料
- 会場 静岡県立中央図書館 3階展示室  
(静岡市駿河区谷田53-1)
- 問合せ 県立中央図書館企画振興課企画係  
電話：054-262-1246

### ◇イベント情報 その2◇

#### ◆国立国会図書館国際子ども図書館 講演会「私が子ども時代に出会った本 一下重暁子、森絵都、片川優子」

国立国会図書館国際子ども図書館では、一般社団法人日本ペンクラブとの共催で、4月23日の「子ども読書の日」にちなんで講演会シリーズ、「私が子ども時代に出会った本」を開催しています。今回は、作家の一下重暁子氏、森絵都氏、片川優子氏をお招きし、子ども時代の読書や出会った本に関する体験談を伺います。

- 日時 4月25日(土)14時～16時(予定)  
(13時30分開場)
- 場所 国立国会図書館 東京本館 新館講堂  
(東京都千代田区永田町1-10-1)
- 対象 中学生以上(定員300名)
- 申込方法など詳細は、国際子ども図書館のウェブページをご覧ください。  
<http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2015-02.html>
- 問合せ 国立国会図書館国際子ども図書館  
「4月25日講演会」担当  
電話：03-3827-2053(代表)

## 静岡県図書館大会 第2分科会 児童に対するサービス 報告

**元**都立多摩図書館職員で児童図書館研究会運営委員長の杉山きく子氏は、①子どもの読書の実態とその影響について、②子どもの本の読み方、③小学校の子どもたちに対する読み聞かせについて、という3つのテーマでお話してくださいました。どのテーマも大変興味深かったのですが、今回は③について報告します。

**小**学生に対して読み聞かせをする際、新刊本を選ぶのは注意が必要です。子どもの求めるものは、年齢が小さければ小さいほど普遍性を持っています。ですから、長年、読み継がれてきた定番絵本から選書した方がいいです。そういった本は、起承転結があり、冒頭から結末までストーリーが一直線に流れるという特徴があります。低学年向けの『おおきなかぶ』、『くまのコールテンくん』、中学年向けの『ロバのシルバスターとまほうの小石』、『だいくとおにろく』など定番中の定番をもう一度手にとって、絵も丁寧にしながら再読すると新しい発見があります。また、グループで読み、感想を語り合うことで、新たな発見もあり、選書のものさしができるようになります。石井桃子さんは「子どもが読んでもおもしろく、大人にもおもしろいのは児童文学とっていい」とおっしゃっています。それにならって、私たちは、大人が読んでもおもしろく、子どもが読んでもおもしろい絵本を選んで子どもに読み聞かせたいと思います。

**本**当に読み聞かせに向く絵本を自分の心の本棚にためていくことが大切です。心の本棚の蔵書はそれほど増やす必要はありません。子ども時代はとても短く、その間に読み聞かせができる絵本は限られています。3年経てば皆さんの前に座る子どもは総入れ替えしています。読み手は飽きるかもしれませんが、何度も繰り返して心の本棚にある絵本を読んであげてくだ

さい。自分の本棚を作るのに何から読んでいいのかわからない時は、信頼できるリスト、例えば東京子ども図書館の『絵本の庭へ』、都立多摩図書館『読み聞かせ ABC』などから作るといいと思います。富士宮市立図書館の『おもしろい本みつけた』もいいリストです。

**絵**本を使わずに、言葉だけでお話を楽しむには、昔話が最適です。昔話は、ストーリーとしても読者を引き付け、聞いていて楽しく味わい深いからです。絵がなくてとまどう子どもがいれば、自分で考えるよう伝えてください。そうすることで絵本とは違う聞き方があることを子どもたちが知り、お話を楽しめます。昔話が子どもを引き付ける力は大人が思っている以上にあります。昔話には、土間やつづらなど子どもが知らない言葉が出てきますが、あまり心配いりません。隅から隅まで言葉の意味がわからなくても、昔話を楽しむことができます。東京子ども図書館の『おはなしのろうそく』やこぐま社の『子どもに語る日本の昔話』など、ストーリーテリングのテキストを読むのがいいのではないかと思います。

**杉**氏は、まとめとして、「本を通じて子どもの持っているいいものがあふれ出てくる。そこに子どもに読み聞かせをする意義がある」とおっしゃいました。改めて子どもたちに対して読み聞かせをする意義を考える機会となりました。

### 所蔵資料から

絵本 『ハンダのびっくりプレゼント』



アイリーン・ブラウン／作  
福本友美子／訳  
光村教育図書  
2006年4月

講演中に杉山氏が読み聞かせをしてくださった本。絵本の絵は文を補足するものではなく、絵は絵でストーリーを語るものだということが実感できる。

## 子どもの本に関する賞

子どもの本に贈られる賞の中には、人名を冠したものが多くあります。コールデコット賞やケイト・グリーンウェイ賞もそうですし、日本でも、坪田譲治や浜田広介など、著名な児童文学者の名前を冠した賞があります。小川未明文学賞は、小川未明の文学精神を継承し、新しい時代にふさわしい創作児童文学作品及び作家を輩出する目的で平成4年に創設され、未明の出身地である新潟県上越市が主催しています。今年度から短編部門が新設されました。

## 所蔵資料から

文学

『光のうつしえ』

廣島 ヒロシマ 広島』

朽木 祥／作

講談社

2013年10月



小学館児童出版文化賞と福田清人賞のW受賞。原爆投下前の広島を平和な日を写した写真をきっかけに、美術部の希未を中心とする中学生が、家族や先生や近所の人など、身近な人のあの日の物語を聞き取り、文化祭の作品に仕上げている。聞き手と語り手の誠実さが印象的。

賞名	受賞作品 (*印は当館未所蔵)
コールデコット賞	『The Adventures of Beekle』 (Dan Santat／文・絵 未邦訳) *
ニューベリー賞	『The Crossover』 (Kwame Alexander／作 未邦訳) *
ケイト・グリーンウェイ賞	『This is Not My Hat』 (Jon Klassen／作 Candlewick Press) 邦訳『ちがうねん』 (長谷川義史／訳 クレヨンハウス) も所蔵
カーネギー賞	『The Bunker Diary』 (Kevin Brooks／作 未邦訳)
小川未明文学賞大賞	『影なし山のりん』 (宇佐美敬子／作 佐竹美保／絵 学研教育出版)
けんぷち絵本の里大賞	『パンダ銭湯』 (tupera tupera／さく 絵本館)
講談社出版文化賞絵本賞	『てつぞうはね』 (ミロコマチコ／著 ブロンズ新社)
五山賞	『みみをすませて』 (和歌山静子／脚本・絵 童心社) *
産経児童出版文化賞大賞	『さわるめいろ』 (村山純子／著 小学館)
静岡書店大賞児童書新作部門	『うみの100かいだてのいえ』 (いわいとしお／[作] 偕成社)
静岡書店大賞児童書名作部門	『ぐりとぐら』 (中川李枝子／さく 大村百合子／え 福音館書店)
小学館児童出版文化賞	『光のうつしえ』 (朽木祥／作 講談社) 『ぼくのふとはうみでできている』 (ミロコマチコ／著 あかね書房)
坪田譲治文学賞	『クリオネのしっぽ』 (長崎夏海／著 佐藤真紀子／絵 講談社)
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	『カエルと王かん』 (なかじまゆうき／作 山田真奈未／絵 BL 出版) 『きいちゃん』 (ながやまただし／作 BL 出版)
日本絵本賞大賞	『きょうはマラクスのひ』 (樋勝朋巳／文・絵 福音館書店)
日本児童文学者協会賞	『星』 (武鹿悦子／著 岩崎書店) *
日本児童文芸家協会賞	該当作なし
野間児童文芸賞	『あたらしい子がきて』 (岩瀬成子／作 上路ナオ子／絵 岩崎書店)
ひろすけ童話賞	『たっくんのあさがお』 (西村友里／作 岡田千晶／絵 PHP 研究所)
福島正実記念SF童話賞大賞	『流れ星☆ぼくらの願いがかなうとき』 (白矢三恵／作 うしろだなぎさ／絵 岩崎書店)
福田清人賞	『光のうつしえ』 (朽木祥／作 講談社)
椋鳩十児童文学賞	『かさねちゃんにきいてみな』 (有沢佳映／著 講談社)



知識

『地雷をふんだゾウ』



藤原 幸一／写真・文  
岩崎書店  
2014年11月

本書の前半では、労働力だけでなく、観光資源として使われている東南アジアのゾウについて現状を概観する。その上で、彼の地はベトナム戦争や内戦の際に地雷が数多く埋められ、既に一万頭以上のゾウが地雷を踏んで命を落としているという衝撃的な事実が示され、また、地雷を踏んだけれども生き残った七頭のゾウについて地雷を踏んだ時の状況、その後の経過が紹介される。平和、そして人間と動物とのかかわりについて考えるきっかけとなる一冊である。  
【小学校中学年から】 (青木)

文学

『アラビアン・ナイトのおはなし』



中川 正文／ぶん  
赤羽 末吉／え  
のら書店  
2014年11月

「アラビアン・ナイト」あるいは「千夜一夜物語」として広く知られる物語から、代表的な3作として「アリババと四十人のとうそく」「アラジンとまほうのランプ」「空とぶ木馬」を選び、子どもに向けて訳したもの。1971年学研刊「アラビアン・ナイト」の再刊。

カラーでふんだんに入れられた異国情緒あふれる挿絵は物語の舞台にじっくり合い、印象深い。丁寧で簡潔な文章とともに、手に取りやすく、読みやすく仕上がっている。【小学校低学年から】 (鈴木由)

文学

『読書マラソン、  
チャンピオンはだれ?』



クラウディア・ミルズ／作  
若林 千鶴／訳  
堀川 理万子／絵  
文溪堂  
2014年11月

クラス対抗の読書マラソンが学校を挙げて開催されることになり、読書大好き少女ケルシーはますます本に夢中になってしまう。授業中も本を読み、家族での外出も拒否し始める。

ページ数の多い本、少ない本。読書レベルに合った本。本当に読んだのかどうか。本を読まない子にどうやって読ませるか。子どもの読書に関わる大人なら必ず考えたことのある問題と、読んだことのある児童書が次々登場する。読書冊数に振り回される大人にこそ読んでもらいたい本。【小学校中学年から】 (鈴木由)

絵本

『おばあちゃんのななくさがゆ』



野村 たかあき／作・絵  
佼成出版社  
2014年11月

お正月が過ぎ、1月7日に七草がゆを作ることになったきりちゃんは、おばあちゃんと一緒に寒い野原に七草を探しに行く。その後、家族で七草がゆを実際に作っていただく。その様子が色彩豊かな木版画で、温かく描かれている。平安時代から続いているというこの習慣を、改めて考えるよいきっかけになる絵本である。巻末に、料理する時の参考になるレシピも付いている。作者は、日本の食文化をテーマにした図書を他にも出版しており、当室に所蔵がある。

【小学校低学年から】 (小松)